

二〇二六年度 武蔵大学 人文学部 ヨーロッパ文化学科 指定校制推薦入学 【小論文問題】

以下はアメリカの評論家スーザン・ソンググが、写真の役割について考察した著作『他者の苦痛へのまなざし』からの記述です（原著は二〇〇三年刊）。これを読み、あとの問いに答えなさい。

（A）遠い土地での苦しみにしてもたらす情報にかんして、写真は何をなすべきだろうか。人々は自分たちの身近にいる者たちの苦しみをしばしば受け入れることができない。（このテーマを扱った賞賛すべき記録はフレデリック・ワイズマンの映画『病院』である。）覗き見の誘惑、また、これは私に起こっていることではない、私は病気ではない、私は死にかけてはいない、私は戦争という罠にかけられてはいないという満足にもかかわらず、他者の試練について、容易に自分を重ね合わせることでできる他者の試練でさえ、それについて考えることを避けるのが人々の正常な反応であると思われる。

サラエヴォの市民であり、ユーゴスラヴィアの理想を終始一貫して支持しているある女性は、一九九三年四月に初めて私がその都市に到着した直後に、こう私に語った。「一九九一年一〇月、私はここに、平和なサラエヴォの（1）快適なアパートにいました。よく覚えているのですが、セルビア人がクロアチアに侵攻して、夜のニュースがここから二百マイル離れたヴコヴァルの破壊される様子を伝えたとき、『まあ、なんて恐ろしい！』と私は思い、チャンネルを切り替えました。だから、フランスやイタリアやドイツの人が、ここで日々起こっている殺戮を夜のニュースで見て、『まあ、なんて恐ろしい！』と言い、他のプログラムにチャンネルを替えたところで、どうして私が怒ることができるでしょう。それが正常だし、それが人間というものです」。どこであれ自分が安全と感じるところにいる人は——これが、彼女が自分を（2）苦々しく責める点なのだが——無関心なのだ。だが確かにサラエヴォの人には、海外でサラエヴォに背を向けている人々とは違う、もう一つ別の理由があって、当時は自分自身の国の一部であった土地で起こっている恐ろしい出来ごとの衝撃的映像を避けて見ようとしなかったのかしれない。彼女が非常に寛大さを示している外国人の（3）怠慢は、何もすることができないという感情の結果でもあった。彼女が近くで起こっている戦争の、予告的な映像にかかわろうとしなかったのは、無力と恐怖の表現であった。

人々がチャンネルを切るのは、（4）暴力のイメージを常に提供されて無関心になつていくという理由だけではなく、恐れているからである。誰もが聞きししているように、映画、テレビ、漫画、コンピューター・ゲームのような（5）大衆文化が許容しうる暴力とサディズムのレベルが上がっている。四〇年前だったら視聴者が嫌悪を感じて寄せつけなかったような映像を、今では多

重送信電子システムのなかにいるすべてのティーンエイジャーが(ウ)瞬きひとつすることなく、見つめている。実際、暴力が野放しになった映像は、ほとんど現代文化のなかの多くの人間にとって衝撃であるよりも娯楽である。だが、人々はすべての暴力を同じ(エ)距離を置いた地点から眺めるとはかぎらない。ある(エ)惨禍は他の惨禍よりも風刺の主題となりやすい。

海外の人々が恐ろしい映像を見せるテレビのスイッチを切るのは、例えばボスニアの戦争が止まないから、指導者たちがこれはどうしようもない状況だと主張するからである。人々の恐怖にたいする反応が(オ)鈍るのは、どの戦争も止めさせることができないように思われるからである。(エ)同情は不安定な感情で、行為に移し変えられないかぎり、萎れてしまう。問題は、喚起された感情や伝達された情報をどうするか、である。「われわれ」にできることは何も無い——だががこの「われわれ」とは誰か?——また「彼ら」にできることは何も無い——「彼ら」とは誰か?——と感じるとき、人はうんざりして冷笑的になり、何も感じなくなる。

(スーザン・ソントグ『他者の苦痛のまなざし』北條文緒訳、みず書房、二〇〇三年より一部改変)

問一 傍線部(ア) (オ) の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 傍線部(1) (5) に相当する英語を書きなさい。名詞は単数形で記すこと。

問三 点線部(A)について、筆者は「遠い土地での苦しみ」を伝える写真や映像をめぐって、現代の人々がどのような態度をとり、どのような問題を抱えていると指摘しているか、文章全体をふまえて簡潔にまとめなさい。そのうえで、あなた自身は他者の苦しみを伝えるニュース映像や写真に接したとき、どのように感じ、どのように向き合うべきだと考えるか、具体的な事例(現在の世界の出来ごとや自分の経験など)を交えて、八〇〇字程度で論じなさい。